

## 8) ホッコクアカエビ資源調査

本田 夏海

### 目的

ホッコクアカエビは本県沖合底びき網漁業の主要漁獲対象魚種の一つである。本県沖合における資源状況及び生態についての基礎資料を収集し、適正な資源利用を目指す。

### 方法

#### (1)漁獲状況調査

本県沖合底びき網漁業の基地である田後、網代港、鳥取中央の各漁協の漁獲量と水揚げ金額を集計した。

#### (2)生物測定調査

水揚げされた漁獲物について、漁期中に原則月1回魚体を購入し、頭胸甲長、体重、生殖腺重量などを測定した。

#### (3)調査船調査

本県沖合及び周辺海域においてトロール調査を実施した。

### 結果

#### (1)漁獲の推移

鳥取県における漁獲量、金額、平均単価の推移を図1に示す。単一魚種として計上され、統計として利用できるのは、網代港で1981年、田後、鳥取中央で1985年からである。漁獲量は1983年以降、減少傾向にあり、1995年以降は低位で横ばい傾向となっている。2003年は昨年より31トン増加し79トンであった。

水揚げ金額は1986年には15.57億円であったのが、以降激減し、2002年には1億円を割り、0.77億円となった。2003年は漁獲量の増加により、前年より0.33億円増加し、1.10億円であった。

水揚げ金額の減少は単価の下落による影響が大きく、平均単価は1980年台後半には4,000円/kg近くであったものが、減少の一途をたどり、2003年にはすべての漁協で1,500円/kgを下回った。

次に、漁獲の多い網代港漁協、田後漁協における2003年の月別銘柄別漁獲量推移を図2、3に示す。網代港漁協では、漁獲のピークが3月と10月の2回見られた。1-3月の漁獲物はほぼ

銘柄「大」のみであったが、それ以外の月では銘柄「中」「小」が漁獲の4-5割程度見られた。銘柄「小小」は5-10月にのみ見られた。一方、田後漁協では、漁獲のピークは9月の1回であった。2-3月は漁獲の9割を銘柄「大」が占めたが、他の月では銘柄「中」「小」の割合が3割程度見られた。

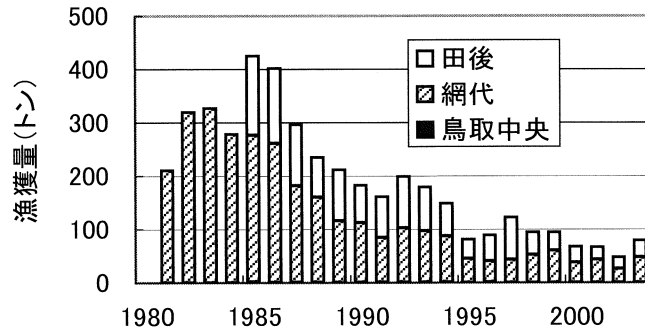
#### (2)生物測定

網代港漁協からは2、3、9-11月、田後漁協からは9月に魚体を購入し、生物測定を行った。測定船の頭胸甲長組成を図4に示す。なお、腹節に抱卵している個体を「外卵保有」、腹節に抱卵していない個体のうち卵巣が青色を呈している個体を「卵巣発達」、卵巣が白色の個体を「卵巣未発達」として区別した。2、3月は頭胸甲長30-32mmにモードの見られる単峰形を示し、その他の月では、頭胸甲長30-35mmのモードに加え、頭胸甲長30mm以下にも1-2個のモードが見られる2峰形ないしは3峰形を示した。卵巣発達個体は5月に若干確認され、9-11月にその割合は大きくなった。

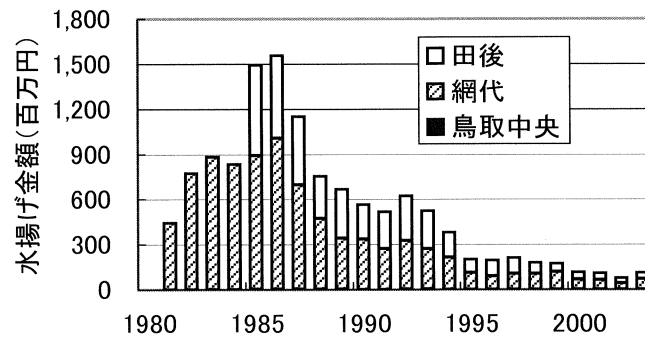
図5に外卵保有個体に占める発眼卵を有する個体の割合を示す。2、3月は発眼卵がほぼ100%であったが、5、9月には全く見られなくなった。9月後半から徐々に発眼卵の比率は増加し、11月には再びほぼ100%を発眼卵が占めた。

生態及び調査船調査における詳細は資料がまとまり次第、報告する。

【漁獲量】



【水揚げ金額】



【平均単価】

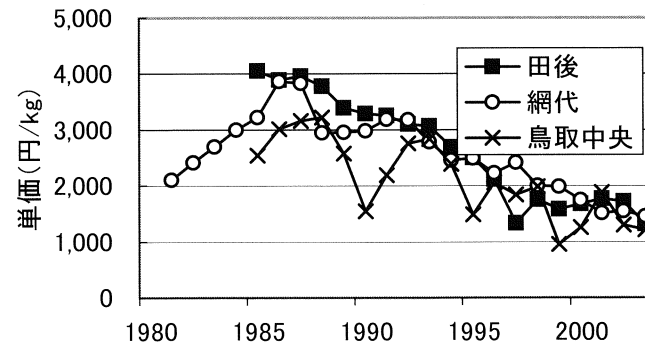


図1 鳥取県におけるホッコクアカエビの漁獲量、金額、平均単価の年推移  
 (網代：1981-2003年、田後・鳥取中央：1985-2003年)

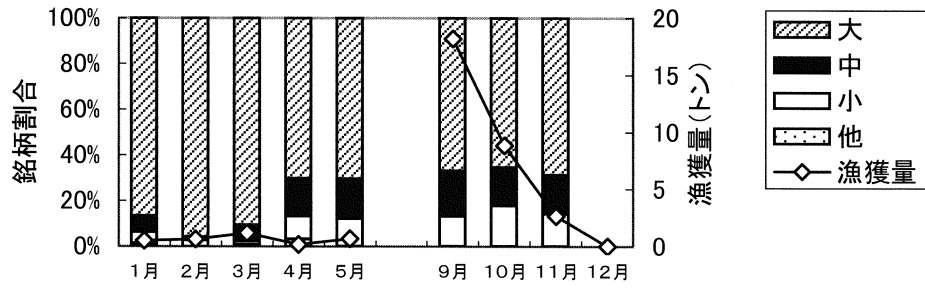


図3 田後漁協における月別銘柄割合と月別漁獲量（2003年）

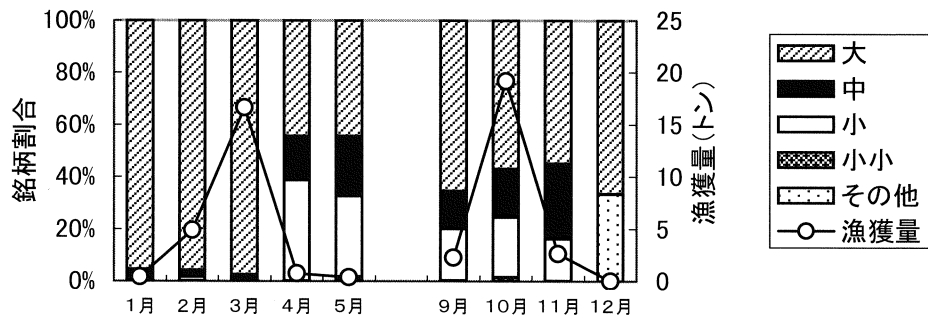
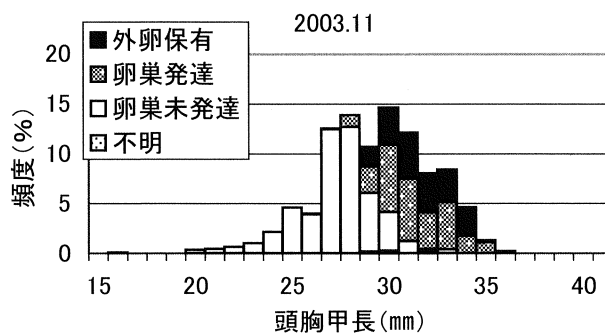
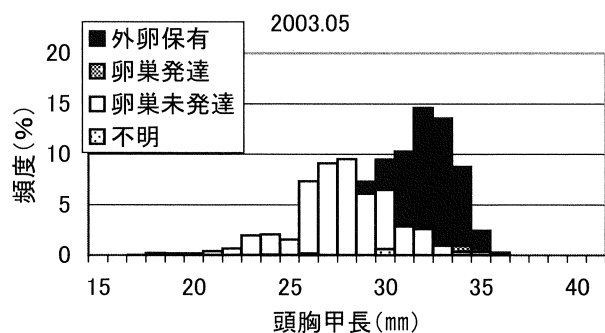
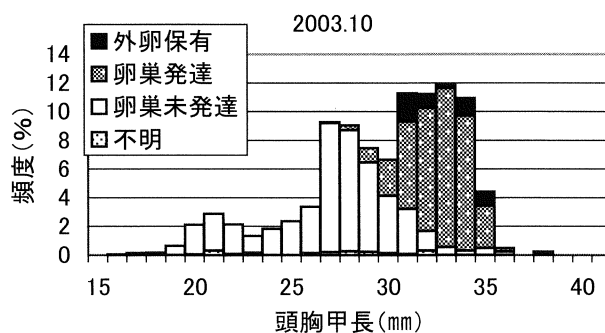
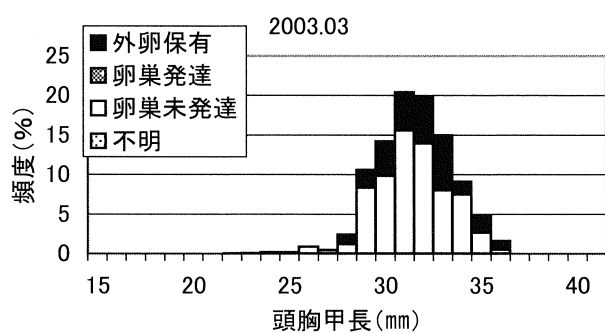
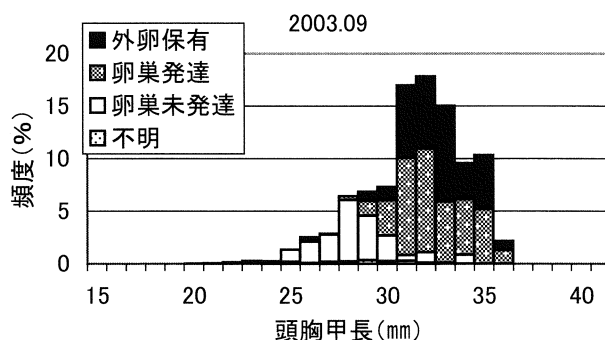
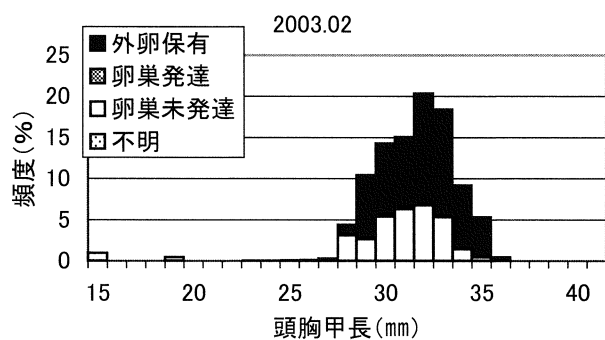


図2 網代港漁協における月別銘柄割合と月別漁獲量（2003年）

【網代港漁協】



【田後漁協】

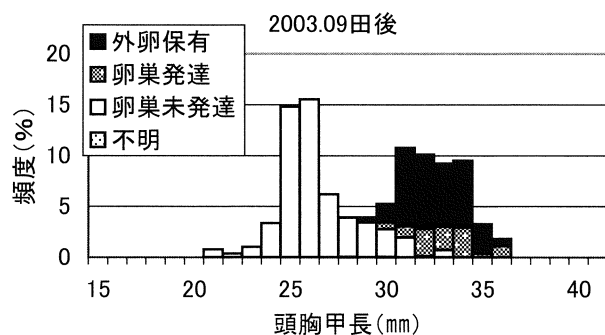


図4 ホッコクアカエビの測定船における頭胸甲長組成 (2003年)

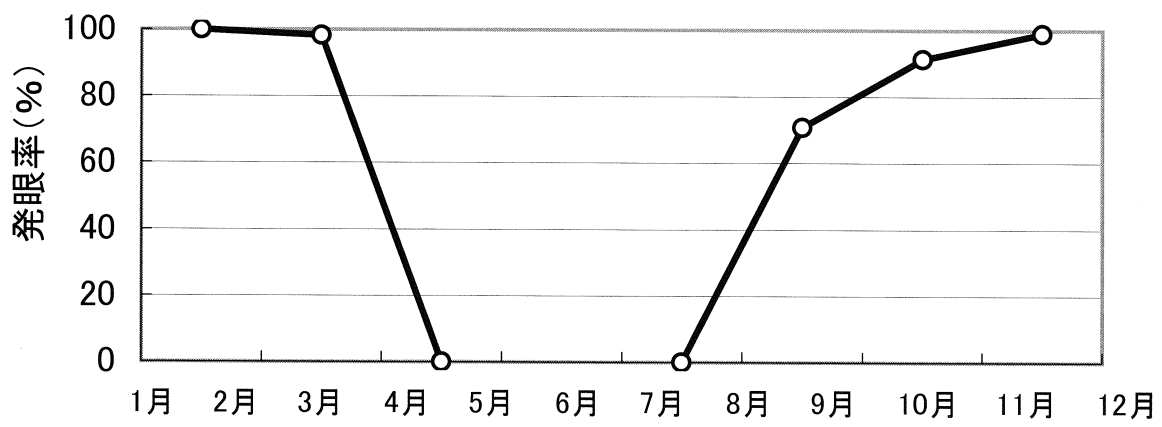


図5 外卵保有固体に占める発眼卵の割合 (2003年)